

## 中間看護管理者のレベル別にみる情報リテラシーの違い

—認定看護管理者研修受講生への実態調査—

### Differences on Information Literacy of First and Second Level Trainees in a Certified Nurse Administrator Education

伊津美孝子<sup>\*1,2</sup> 真嶋由貴恵<sup>\*2</sup>

Takako IZUMI<sup>\*1</sup>, Yukie MAJIMA<sup>\*2</sup>

<sup>\*1</sup> 森ノ宮医療大学保健医療学部看護学科

<sup>\*1,2</sup> School of Nursing, Faculty of Health Sciences Morinomiya University of Medical Sciences

<sup>\*2</sup> 大阪府立大学大学院 工学研究科

<sup>\*2</sup> School of Engineering, Osaka Prefecture University

Email: izumi@morinomiya-u.ac.jp

あらまし：本研究は、中間看護管理者の情報リテラシーの現状と課題を明らかにすることである。2011年8月～12月に認定看護管理者研修受講者116名(ファーストレベル80名, セカンドレベル36名)を対象に、自記式質問紙調査表を用いて調査を行った。その結果、ほとんどの受講生が認知レベルでは、「情報リテラシーの各項目は看護管理者には非常に必要である」と考えていたが、実践レベルでは①入手した情報の信頼性を判断する方法②統計ソフトを使用してデータ処理③著作権に注意して発信する④ICTの利用上の注意点を理解しトラブル発生時の対処法の4点について「実践できる」は、低い得点を示した。また、研修コース別にみると、セカンドレベル受講生は、ファーストレベル受講生に比べ ICT の利用上の注意点やトラブル対処法、適切な ICT ツールを使って相手にわかりやすく伝える方法以外の項目は高い得点を示した。

キーワード：情報リテラシー, 情報教育, 中間看護管理者, 認定看護管理者

#### 1. はじめに

病院における中間看護管理者は、一組織単位(病棟)のキーマンであり、その管理能力(人、物、金、情報、時間等)により、看護の質や医療の質に多大な影響を及ぼし、新人看護師教育、継続教育の企画、運用力が問われる。一組織単位の中間看護管理者は、日々様々な情報を取り扱っており、多くの情報をどのように収集、整理、分析、発信するか、情報倫理観の獲得など、情報リテラシーが喫緊に求められている。一方、「看護管理者の管理能力評価」に関する先行研究<sup>(1)</sup>では、能力評価得点の低い項目の中に情報指向性があげられている。また、「変革期における中間管理者のコンピテシー」の研究<sup>(2)</sup>でも、情報管理能力(収集・把握・共有・分析・伝達・提供・活用)は、対象者全員が必要だと考えていた。しかし、現在、現場で情報管理を行う中間看護管理者は情報教育を受けている者が少なく、ICTを活用しきれていない状況にある。そこで、日本看護協会は、認定看護管理者研修を実施し、患者ケアに役立ち、看護の質改善に資する情報管理のあり方を学ぶ科目を実施している。

認定看護管理者は、多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的サービスを提供することにより、保健医療福祉に貢献することを目指しており、日本看護協会による認定看護管理者認定審査に合格した者をいう。認定看護管理者教育課程は、ファーストレベル150時間

(看護情報論12時間)、セカンドレベル180時間(情報管理論27時間)、サードレベル180時間で構成されている<sup>(4)</sup>。研修受講者のほとんどが、看護師長、看護主任などの中間看護管理者である。

そこで、本研究では、認定看護管理者研修受講生を対象に、研修レベル別に見た情報リテラシーの違いを明らかにし、今後、中間看護管理者への情報教育について考察する。

#### 2. 研究方法

2011年8月～2011年12月までA看護協会で開催された認定看護管理者研修受講生123名(ファーストレベル87名, セカンドレベル36名)を対象に、情報リテラシーに関する自記式質問紙調査を行った。

調査内容は、情報リテラシーに関する16項目に対して、「まったく必要ない～非常に必要である」、「まったくできない～大変よくできる」を1～5段階のリッカート尺度とした。

倫理的配慮については、守秘義務、研究協力への任意性及び中断の自由、結果の公表などについて文書で説明し、質問紙の回収をもって同意を得るものとした。なお、本研究は森ノ宮医療大学倫理委員会の承認を得て行った。

#### 3. 結果及び考察

質問紙の有効回答数は116(94.3%)(ファースト80(92.0%), セカンド36(100%))であった。受講生の概要については、表1に示す。

表1 認定看護管理者研修受講生の概要

| 属性            | 研修コース    |           |           |
|---------------|----------|-----------|-----------|
|               | ファーストレベル | セカンドレベル   |           |
| 平均年齢          | 42.6±5.3 | 46.0±8.7  |           |
| 勤務場所          | 病棟       | 53(66.3%) | 26(74.3%) |
|               | 外来       | 9(11.3%)  | 2(5.7%)   |
|               | 手術室      | 8(10.0%)  |           |
|               | 看護部      | 4(5.0%)   | 3(8.6%)   |
|               | その他      | 6(7.6%)   | 4(11.3%)  |
| 職位            | 看護部長     |           | 2(5.7%)   |
|               | 副看護部長    | 1(1.35%)  | 4(11.4%)  |
|               | 看護師長     | 41(51.3%) | 28(80.0%) |
|               | 看護主任     | 32(40.0%) |           |
|               | その他      | 1(1.35%)  | 1(2.9%)   |
| 情報教育(高校など)の有無 | 有        | 16(20%)   | 7(20.0%)  |
|               | 無        | 64(80%)   | 28(80%)   |
| 助言者の有無        | 有        | 77(96.3%) | 30(85.7%) |
|               | 無        | 9(3.8%)   | 1(2.9%)   |

ファースト受講生は、平均年齢が低く、職位は、看護師長、看護主任がほとんどであった。セカンド受講生の職位は、看護部長、副看護部長が多く、看護主任はいなかった。「情報教育(高校など)受講の有無」については、ファーストでは、16(20%)が、高等学校教育やセミナーに参加をして情報教育を受けていたが、セカンドでは、高校では殆ど受けておらず、認定看護管理者研修(ファーストレベル15時間)での受講を回答していた。「PCの使用は好きか」については、ファーストは「あまり好きではない」「嫌いである」を合わせて29(42.3%)を占めていた。セカンドでは、「嫌い」と答えたものはいなかった。情報リテラシーに関する質問項目の結果を表2に示す。

表2 看護管理者の情報リテラシー

| 情報管理能力                              | 研修コース     |           | セカンドレベル   |           |
|-------------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
|                                     | ファーストレベル  | セカンドレベル   | 必要な能力     | 実践レベル     |
| インターネットを使って問題解決に必要な情報を検索することができる    | 4.56±0.68 | 3.68±0.89 | 4.64±0.59 | 3.85±0.63 |
| 入手した情報の信頼性を判断するための方法を知っている          | 4.50±0.76 | 2.86±1.00 | 4.59±0.60 | 3.08±0.66 |
| 統計ソフトを使用してデータの処理を行うことができる           | 4.53±0.66 | 2.79±1.11 | 4.51±0.64 | 3.00±0.83 |
| 状況に応じたコミュニケーションツールを使用することができる       | 4.38±0.76 | 3.39±0.84 | 4.38±0.63 | 3.56±0.75 |
| 著作権に注意して発信することができる                  | 4.53±0.77 | 2.88±1.05 | 4.67±0.53 | 3.08±0.87 |
| 個人情報を保護しながら、データを収集・活用することができる       | 4.61±0.82 | 3.12±0.96 | 4.77±0.43 | 3.29±0.90 |
| 適切なICTツールを使ってわかりやすく表現し、相手に伝えることができる | 4.57±0.72 | 3.79±0.71 | 4.62±0.63 | 3.59±1.00 |
| ICTの利用上の注意点を理解し、トラブル発生時の対処方法を知っている  | 4.48±0.75 | 2.97±0.80 | 4.36±0.67 | 2.85±1.07 |

看護管理者として必要な情報リテラシーについては、両群ですべての項目が4.0以上の得点を示しており、情報リテラシーの必要性は認識しているといえる。特に「個人情報を保護しながら・データを収集・活用することができる必要がある」が、4.66±0.71で、最も高い結果を示した(表2)。

実践レベルでは、「インターネットを使って問題解決に必要な情報を検索することができる」、「適切なICTツールを使ってわかりやすく表現し相手に伝えることができる」が両群ともに3.50以上であった。

このことは、近年の臨床における個人情報保護に関する問題や臨床研究指導に関わる機会も多くなり、実際にICTを活用して管理する機会が増えていること、電子カルテや文献検索システムなどを導入する施設が増加していることが考えられる。

受講コース別では、ICTの利用上の注意点やトラブル対処法以外の項目は、すべてセカンドのほうが高い結果を示しており、これはすでにファーストで看護情報学(15時間)を修了しているためといえる。しかし、①入手した情報の信頼性を判断する方法②統計ソフトを活用したデータの処理③著作権に注意して発信する④ICT利用上のトラブル発生時の対処方法の4点については、両群とも低い結果を示した。ICTの利用上の注意点やトラブル対処法、適切なツールの使用が低い結果を示した。伊津美らの研究<sup>(4)</sup>でもeラーニング操作に関して「ID・パスワードの使い方がわからない」、「自宅からでは、パソコンの画面が開かなかった」などの意見が見られており、中間看護管理者は具体的なコンピュータ機器やシステムの使用方法に不慣れで、情報機器の取り扱いの苦手意識が影響していると考えられる。

以上のことから、ファーストで情報教育を受けているセカンド受講生は、相対的に情報リテラシーに関する評価は高くなっているが、実践レベルでの苦手項目については、研修等で獲得した知識や技術を所属する組織内で情報リテラシーを向上するための継続教育が必要であると考えられる。例えば情報機器の苦手意識を克服するための方略として、パソコンやインターネットにアクセスしやすい環境の整備、操作や使用方法を周知するための研修等が考えられる。

#### 4. 結論

本研究は、認定看護管理者研修者116名を対象に、情報リテラシーに関する調査を行った。その結果、ほとんどのものが、看護管理者に情報リテラシーが必要と考えていた。しかし、実践レベルでは、ICTを十分に使いこなせていない現状も明らかとなった。今後、研修終了後、獲得した知識や技術を実践できるような組織的なICT環境整備や継続教育が必要といえる。

#### 参考文献

- (1) 横山重子, 横山利恵他: 看護管理者の管理能力因子に関する研究, 上武大学看護学部紀要 2(2), pp.59-65(2005).
- (2) 松田琴美: 変革期における中間管理者のコンピテンシー, 滋賀医科大学大学院修士論文(2008).
- (3) <http://nintei.nurse.or.jp/nursing/qualification/can,2013.6.17>
- (4) 伊津美孝子他: eラーニングを活用した新卒看護師教育方法-中間看護管理者の人材育成の現状と課題-教育システム情報学会 研究報告 vol.26. No.1, p.77-80, 2011.